

1. 3 福井県年縞博物館と若狭三方縄文博物館での講演・見学と体験学習（地歴公民分野）

(1) 研究開発の課題（研究概要）

福井県年縞博物館での講義と見学によって、三方五湖周辺の7万年間の自然環境の変化について探究させることができる。また、若狭三方縄文博物館での見学と体験学習によって、縄文時代の生活を疑似体験し、人類史への興味・関心を高めることができる。

(2) 研究開発の経緯

本年度は、一昨年度・昨年度に引き続き、自然環境の変遷と人類史をテーマとして設定した。事前指導の後、両博物館での講演・見学と体験学習を行い、事後に振り返りを行った。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は科学への関心や課題発見力などの「真理探究力」を促すことができる。

イ 研究の内容・方法

該当教科 地理歴史・公民科

対象生徒 1・2年希望者 23名

日時場所 10月19日（土）福井県年縞博物館

若狭三方縄文博物館

実施内容

講演・見学・体験学習

内容 福井県年縞博物館学芸員による講演
福井県年縞博物館での年縞等の見学
若狭三方縄文博物館での土器等の見学
若狭三方縄文博物館での「勾玉づくり」

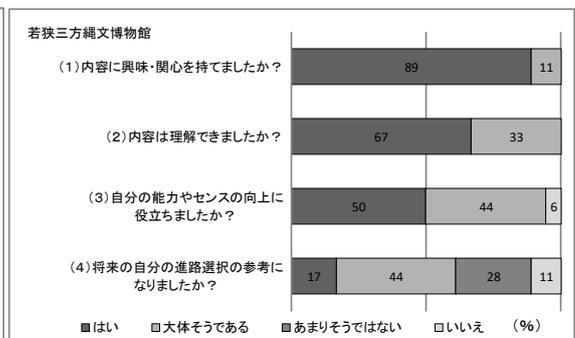
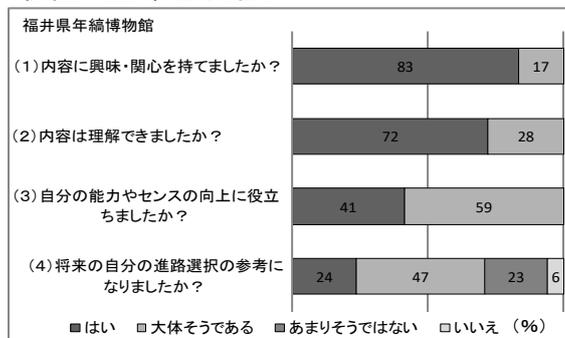


学芸員による講義の様子



「年縞」の見学の様子

ウ 検証（成果と反省）



生徒の感想から

- ・海底に生物がない、沈下現象が起こる、大きな河川がない、山に囲まれているなどの条件によって7万年に及ぶ約45mもの長さの年縞が見られるというのは驚いた。気候、地形などの条件が異なる場合についても調べてみたいと思った。
- ・本物の縄文土器を初めて見た。絵が描かれていたり、底に穴が開いていたり形態はさまざまでも魅力的だった。普段日本史の教科書を見るのとは違って、実物を目にするので、より深く印象に残り、本当に良い体験だった。

アンケート結果や生徒の感想から、多くの生徒が三方五湖周辺の7万年間の自然環境の変化や縄文時代の生活について興味・関心を高めて探究し、新たな課題を見つけることができたことが分かった。また、より時間をかけて博物館を見学したかったとの感想が多かったため、次年度以降の日程・見学地の選定の際に留意したい。

